

第1回嘉麻市総合計画策定審議会資料

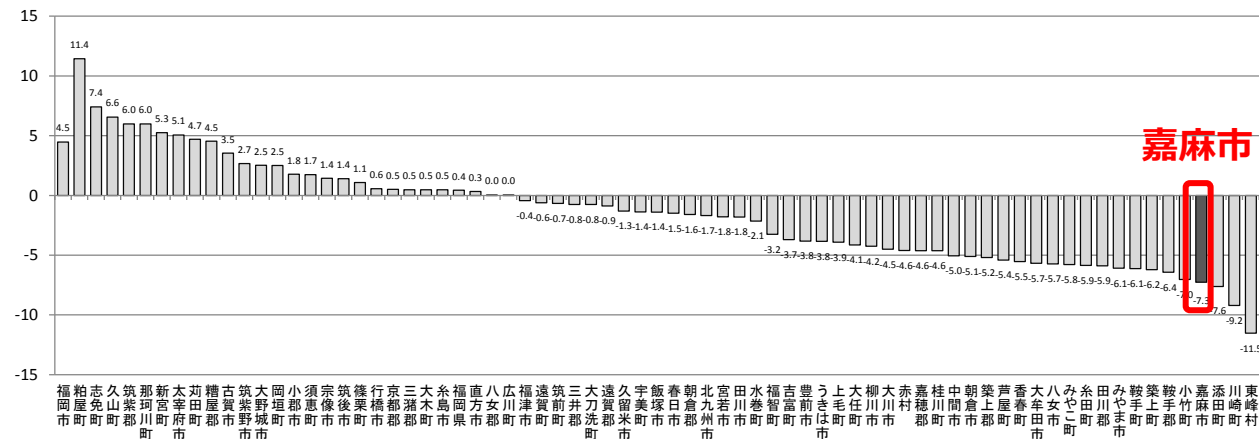
【第2次嘉麻市総合計画策定に係る資料】

人口の現状

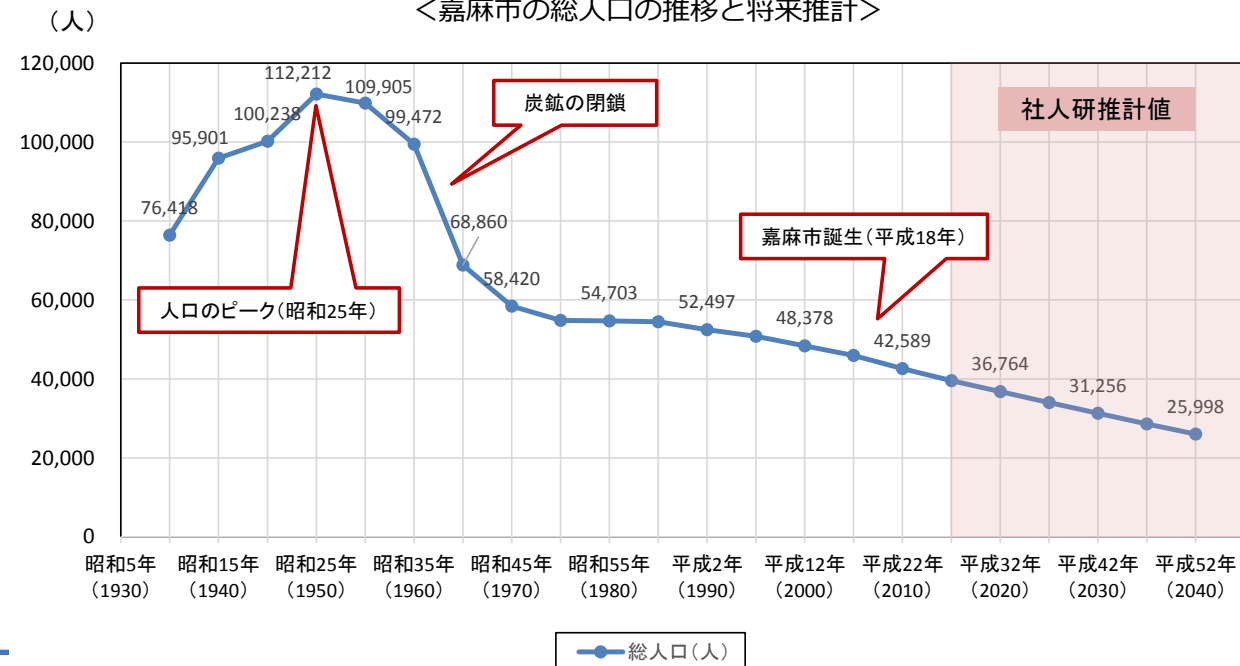
- 本市の人口は、福岡県内で4番目の減少率となっている。
- 昭和25年以降人口は減少を続け、平成52年には約26,000人になると推計となっている。

- 福岡県の市町村で平成17年から平成22年にかけての人口増加・減少率を比較すると、本市は、7.3%の減少で、県内で4番目の減少率となっています。
- 本市の人口は、昭和25(1950)年の112,212人をピークとして急激に減少しました。昭和45(1970)年以降は、人口減少のペースは緩やかになったものの、依然として人口減少は続き、平成12(2000)年には人口5万人を割り込みました。
- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が平成25年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」によると、平成27(2015)年以降も人口の減少傾向は続き、平成52(2040)年には25,998人にまで減少すると推計されています。これは、平成22(2010)年の42,589人と比較すると、16,591人(39.0%)の減少ということになります。

＜人口増加・減少率の比較(H17~22)＞



＜嘉麻市の総人口の推移と将来推計＞



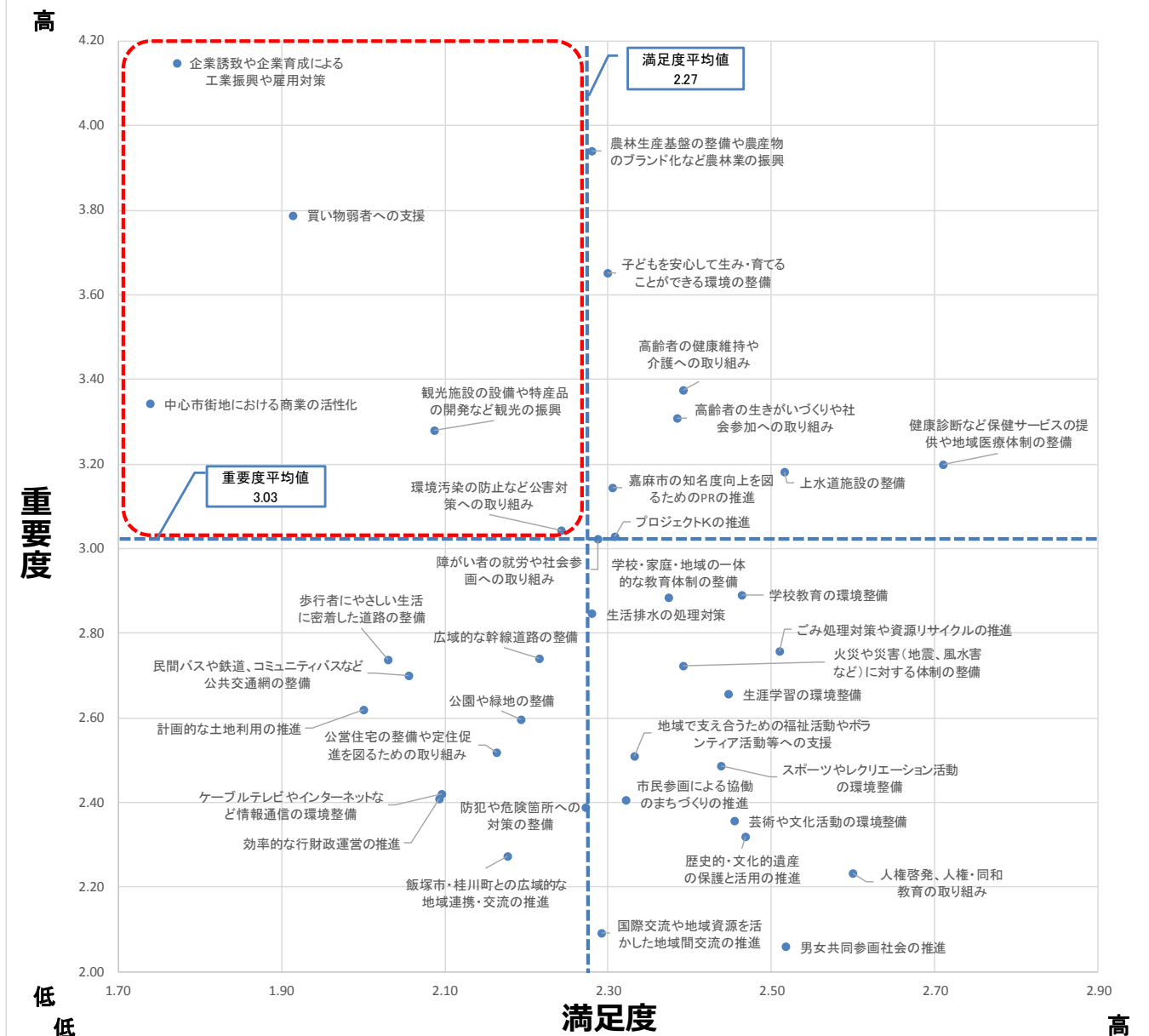
まちづくりに対する住民意識

- 重要度が高く、満足度が低い「今後重点的に取り組む必要のある施策」として、「企業誘致」や「商業活性化」、「観光振興」について挙げられている。

- 住民アンケートでは、第1次総合計画に位置づけられている基本施策について重要度、満足度の加重平均値に基づき分析を行いました。
- 重要度が高いと評価されている施策の上位5つは、「企業誘致や企業育成による工業振興や雇用対策」「農林生産基盤の整備や農産物のブランド化など農林業の振興」「買い物弱者への支援」「子どもを安心して生み・育てることができる環境の整備」「高齢者の健康維持や介護への取り組み」であり、産業、農工商、医療・福祉施策が上位を占めています。
- 課題性の高い施策(平均より重要度が高く、満足度が低い施策、下図の赤枠部分)は、「企業誘致や企業育成による工業振興や雇用対策」「買い物弱者への支援」「中心市街地における商業の活性化」「観光施設の整備や特産品の開発など観光の振興」「環境汚染の防止など公害対策への取り組み」であり、産業、商業、環境に関する施策への対応が課題となっています。

＜第1次総合計画の基本施策における住民の重要度と満足度の相関関係＞

今後重点的に取り組む必要のある施策



今後 10 年の嘉麻市のまちづくり・将来像（各課ヒアより）

- 全てのご意見の根底に“若い人の流出・減少（少子・高齢化）をいかに抑制するか”という想いをもっている職員の方が多い。

- 6月20日～27日実施の第2次嘉麻市総合計画の策定に向けた各課ヒアリングの際に、1人の市民の立場として自由に述べていただいたものです。全てのご意見の根底に“若い人の流出・減少（少子・高齢化）をいかに抑制するか”という想いがありました。

【今ある資源やコミュニティを活かす】

- ① 自然や田舎の良さを持ち続ける。それぞれの集落がキラキラしているまち。(5人)
- ② 地域のコミュニティの中で住み続けられるまち。地域の力を高める。(4人)
- ③ 地域の資源やこれまで培ってきたものを活用・PRして人を呼び込む。(3人)
- ④ 豊かな自然と共生するまち。(2人)
- ⑤ 歴史や文化が香るまち。自然の中で創作活動する芸術家村。(1人)
- ⑥ 空き家の活用。(1人)
- ⑦ 高齢者の知恵や力が活かされるまち。(1)

【一体感の醸成・一つになった取り組み】

- ① 住民参加で市民とともに取り組むまち。市民の意見が反映されるまち。(4人)
- ② 合併前の1市3町にこだわらず、1枚岩として一体的に取り組むまちづくり(3人)
- ③ 嘉麻市民として市民の一体感があるまち。一つになれる祭りやイベント。(2人)

【雇用の確保・交流の拡大】

- ① 消滅都市にならないよう、情報発信して観光・交流人口を増やす。(3人)
- ② 学生や若者がUターンできるまち。雇用の確保。(3人)
- ③ 赤字再建団体にならないように。人・企業を呼び込んで財源の確保。(2人)
- ④ 人口減少をくい止めるため、産学官、行政の横串の取り組み。(2人)
- ⑤ 工場に限らない誘致。病院や研究機関、その他もろもろ。(1人)

【利便性の向上】

- ① 公共交通が充実し、高齢になっても住み続けられるまち。(3人)
- ② 福岡と直結する幹線軸をつくる。交通アクセスを良くする。(2人)
- ③ 生活しやすいまちにして、人口減少をくい止める。(2人)
- ④ 商業施設など日常の利便性を高めて人口減少をくい止める。(1人)

【地域イメージの向上】

- ① 子どもの笑顔が引き継がれるまち。子ども・若者がいるまち。(2人)
- ② 明るいまち。明るいイメージのまち。活力・活気が感じられるまち。(2人)
- ③ 筑豊のイメージを払拭したい。(1人)

【教育レベルの向上】

- ① 教育がトップレベルのまちとして定住促進。教育の充実。(5人)

【その他】

- ① 住民主導のまちづくり。小さい頃から自主防災の意識教育。(2人)
- ② 男女共同のまちづくり。女性議員を。条例の追加・充実。(2人)
- ③ 人にやさしいまち。人が人として生きていけるまち。(1人)
- ④ 人口に見合った公共施設。(1人)
- ⑤ 拠点が明確なまち。(1人)
- ⑥ わかりやすい将来像を示す。(1人)

まちづくりの主要課題（案）

- 人口減少社会を見据えた各種課題への対応が必要となる。
- 市民アンケートや各課ヒアリングから見える課題の位置づけを行う。

課題1 人口減少への対応

- ① 人口減少率 福岡県下ワースト4位という現状
- ② H72（2060）年には17,400人になる予測推計
- ③ 各課連携による総合的な取り組みが必要
 - ・住んでみたい、住み続けたいまちとしての魅力（プライド・地域イメージ）
 - ・職場の確保、提供
 - ・子育て環境（子育て仲間・子育て支援・教育環境・安全性…）
 - ・安全で快適な居住環境（地域-まち・交通・家…）
 - ・安心して暮らせる環境（医療・福祉サービス…）
- ④ ハード・ソフト両輪の施策展開が必要

課題2 雇用の場の確保

- ① H27年度に実施した市民アンケートにおいて、重要度が1位だが満足度が低い施策項目
- ② 失業率が高い
 - ⇒新たな雇用の創出が必要（創業起業支援・異業種連携・産学連携・企業誘致等）
- ③ 農林畜産資源を活用した特産品づくりや、観光・交流への展開
- ④ 商業の活性化が必要（アンケートにおいて、移りたい理由の2位「買い物不便だから」）

課題3 安心できる暮らしを支える条件整備

- ① H27年度に実施した市民アンケートにおいて、移りたい理由の4位「高齢者や障がい者が暮らしにくいから」5位「保健や医療の面で不安だから」
 - ⇒保健・医療・福祉の充実が必要
- ② 各種支援策（アンケートにおいて、重要と思う施策「2位：子育て支援」「3位：買い物支援」「就業支援」）

課題4 教育・文化的環境の充実

- ① 企業誘致に際しても、従業員の家族のために充実した教育環境やレクリエーション環境が整っているまちが求められている
- ② 学校教育の充実への対応
- ③ 生涯学習への対応
- ④ 芸術文化の振興・文化財や歴史的環境の保全・祭りや伝統行事の継承への対応
- ⑤ スポーツ関連の取り組み（プロジェクトK等）の推進

課題5 住んでみたい、住み続けたい快適な暮らしの場の形成

- ① 自然環境を保全した環境共生のまちづくりが必要
- ② 交通環境-道路体系・公共交通の充実（アンケートにおいて、重要な施策の4位・移りたい理由の1位）
- ③ 住宅供給・住宅改善（バリアフリー化・耐震化）支援
- ④ 居住の支援・転入支援が必要
- ⑤ 魅力ある公園やスポーツレクリエーション施設の整備
- ⑥ 上下水道・ごみ処理の整備
- ⑦ 安心安全な暮らし（防犯・防災対策）の確保

課題6 官民協働による取り組み

- ① 市民参加への機運と推進（H22年12月に嘉麻市自治基本条例を施行）
- ② 男女共同参画の推進
- ③ 人権教育・人権啓発の推進（人権・同和教育の推進等）

課題7 将来を見据えた効果的な行財政運営

- ① 公共施設のマネジメントの推進（H27年3月に嘉麻市公共施設等適正化基本方針を策定）
- ② 組織機構改革・職員の人材育成が必要
- ③ 財務管理（健全財政）・ふるさと納税への対応
- ④ 効率的な行財政運営の推進